みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology Repository

調査地の概要

著者	和田　正平, ワダ　ショウヘイ, Wada　Shohei, 江口　一久, エグチ　カズヒサ, Eguchi　Paul Kazuhisa
雑誌名	国立民族学博物館調査報告
巻	58
ページ	5-12
発行年	2005-12-26
URL	http://doi.org/10.15021/00001615

2 調査地（スフム アコラボ村）の概要

1 位置
2 歴史
3 政治組織
4 教育と教会
5 ココア生産
6 世帯と家族
7 結婚と出生
7.1 贈り物
7.2 人的配置
7.3 命名式
8 村祭り
9 水の霊
10 家の霊
11 葬礼
12 情報提供者

1 位置

アコラボ村は東部州（Eastern Region）アキェム・アブアクワ郡（Akyem Abuakwa State）に位置している。調査地に選定されたアコラボ村にもっとも近い町は北緯6度2分西経27分に位置するスフム市（Suhum）である。アコラボ村はスフム市から約6マイル，マンゴアセ（Mangoase）に通ずる国道に面している。

2 歴史

口頭伝承によると，アコラボ村は19世紀末頃にニイ・T・A・コラボ二世（Nii. T. A. Korabo Ⅱ）によって創設された。彼はシャイ（族）の上級首長（Asafoatse）で，アドンテヘネ（Adontehene）の敬称を与えられていて，海岸部の大アクラ地方の町ドドア（Dodoa）から部下を率いて入植したという。彼に従った入植者は，最初はアクアピン（Akwapin）でココアの栽培を目的にアスオヤー（Asuoyaa）の地に定着した。当時，この地方はココア生産地として開墾され，ココアの苗木が移植されていった[1)]。

苗木が生長し，ココア生産がはじまると，報酬はその日の労働量によって支払われた。だがまもなく，ココア樹に特有の病気が発生し，枯死する症状があらわれてきた。首長コラボ二世はこの地を放棄し，新しい天地を求めて移動することにした。一行はデンス川（Densu）を渡り，開拓適地を探した。ようやく入植地を定めたのがアユエム（Ayuem）という土地で，アッタ一世，K.B.E（Nana,Sir,Ofori,Atta I,K.B.E）の統治であった。コラボ二世はシャイ（族）の慣習にしたがい，監督しているアブアクア郡のアサフォ（Asafo）の首長アパカヘネ（Apakahene）のところへおもむき，土地の使用許可を願い出た。土地の権利を認められると，早速，入植が開始され，その面積はクアヒイアエ（Kwahiyiae）からアモアクロム（Amoakrom）に及ぶ，ほぼ半径8マイルの範囲に広がっていた。

首長（コラボ）はスムナ・ククナ（Sumuna Kukuna）を入植地と定め，開村し，アコラボ（Akorabo）と名づけた。そこは，現在のアコラボの旧村（old town）にあたる場所である。初期の入植者はシャイ（族）とアカン（族）が主流で，前者はドドア，後者はアクアピンから来住した。アコラボは人口増加にともなって順調に開発が進み，アクラ（Accra）コホリドュア（Kohoridua）ンサワン（Nsawan）クワ（Kwah）等の食料供給地として繁栄した。プランティン・バナナ，キャッサバ，トウモロコシ，ココヤシ，ヤム，豆類，バナナ，玉ねぎ，油ヤシ，その野菜類等の農産物を出荷した。また，家内産業としてかご細工，機織，土器製作等も発達した。日常雑貨を売る商店や酒を主とした飲食店が立ち並び，商人も出現した。この地方は火曜日，金曜日が市場の日で，その日は売買に大勢の人が集まりひときわにぎわった。

1952年には町役場が設置され，首長は市場の監督，徴税の責任を持たせられた。また，婚姻や離婚，金銭，物品等の賃借関係等の民事に関する司法処理をおこなったが，刑事事件は州（Aboraku）の扱いとなった。首長コラボはアコラボの開祖のとしての功績により，アサフォのアパコヘネからオディクロン（Odikuron）という称号が与えられた。

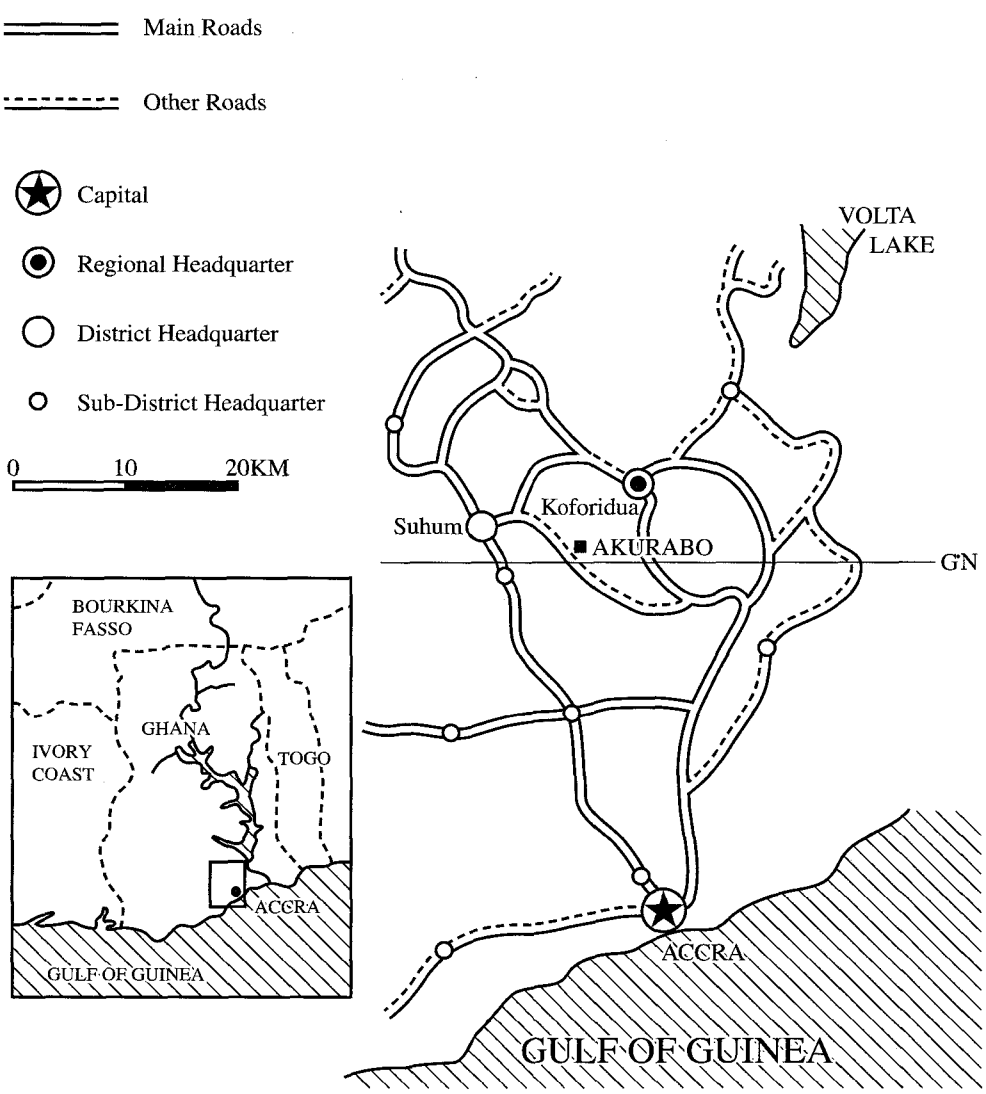
3　政治組織

アコラボ郡はオデクロ（Odikuro）によって統率されていた。オデクロとはガーナの政治組織では，最小の首長単位であり，アコラボ郡では指導的地位にある首長（Head Chief）である。オデクロの地位は父系出自より継承され，長老たちによって推挙される。アコラボは行政的にいくつかの地区に分かれており，各地区の長老たちがオデクロの指示の下に仕事を分担して協力する。以下，歴代オデクロの地位は次のように継承された。

1）初代オデクロは開村から1935年までコラボ一世（Nii Kwasi Bodowa Korabo Ⅰ）が首長位であった。引き続き1935年から1943年までコラボ一世が首長位にあった。
2）第二代オデクロは1943年から55年までコラボ二世（Nii Kwasi Nyame Korabo Ⅱ）が首長にあった。
3）第三代オデクロは1955年から57年までコラボ三世が首長位にあった。

オデクロは歴代先祖を祀った旧村に住むのが慣例であった。アコラボは以下5地区から成り立っていた。

1）シエソ地区（Sieso），地区長（チーフ）はマンクラド（Mankurado）
2）タクニャ地区（Takunya），地区長はアンコベア（Ankobea）
3）シャイマメ地区（Shaimame），地区長はオディクロ（Odikuro）


Main Roads
Other Roads
Capital
Regional Headquarter
District Headquarter
Sub-District Headquarter
0
10
20KM
BOURKINA FASSO
GHANA
IVORY COAST
TOGO
ACCRA
GULF OF GUINEA
VOLTA LAKE
Koforidua
Suhum
AKURABO
GN
ACCRA
GULF OF GUINEA

Apedwa
Ntabea
AKWADUM
Kibi
Densuso
Ntunkum
ADAAKWAI
Abisim
NANKASI
Bomin
K'DUA
Bretima
Nyomikrom
Bakukrom
Ahoatampong
KABU HILL
Otwebediadua
Nankasi Ningo
Okanta
Kwesi Komfo
Omenako (3)
Nkronkura
TRIO
ADDISO
Asuobonta
Babianeha
Tei Mensa
NIFIO
Mamenhyeso
Kawsu
Obuatumpan
Obomofo Densua
Atiebu
APONOAPONO (5)
Aponoapono
Kentenkeri
Obuatumpan Nkatekwan
SUHUM
AMANHIA
SUPRISO
Abobri
Praprabadida
Kofi Gya
Aburadim
Old Supreso
Koleman
Nubeso
Kwahia
Densu River
Bokaw
Abunabun (3)
Okanta
Okorram
Alikrom
Okorasi
Kromanen
Kuiaso (4)
Okorasi
AKORABO
Amede
Koransang
Domi
Betenasi
Kuana
TEYEKASUM (4)
KUKUA (3)
SOWATEY
Mfrano (3)
Santrama No. 1
Mfranta (3)
Aboabo Sonk
AMANASI (5)
Abehu
Santrama No. 2
ANUMAPAPAM (0)
Kwadjohu
Ningo
Budue
Aboabo
Boasi
Asempaneye
Amiame
Okaikrowa
Kukosu
Chi udabi
Adumadum (3)
Tetekrowa
Kokuoso
Mankroma (3)
Apau Wawasi
Nananko
Kwame Ayu
Kukosu
Metemano
Faotri Kosie
Tetenku
Kwamichere (3)
Abude
Anum Asuboi
ASUBOI (5)
Wawasi
Awisam
Afransi Dadewa
KOFI PARE
Abonwa
Nsantrakrowa
Nsantra
Kuaso
Kwamekura
Akyease
DOKROCHIWA
Densu River
Kuiano
CHICHIWERE
Moframfadjin
Ogbolu
Kwaboanta
Otareso
Amfahum
Adjademan
Domiabra
Kwaboanta Kokosiase
Akufokuma
Kraboa Coaltar (5)
Amfaso
TEACHER MANTE (3)
Govinakrom
Yaw Donkokrom
Adiembra
Mangoase
1/62500

REFER

DISTRICT BOUDARY

1st Class Road

2nd Class Road

3rd Class Road

Railway

River

POPULATION

ABOVE 40,000

3,000 – 40,000

1,000 – 3,000

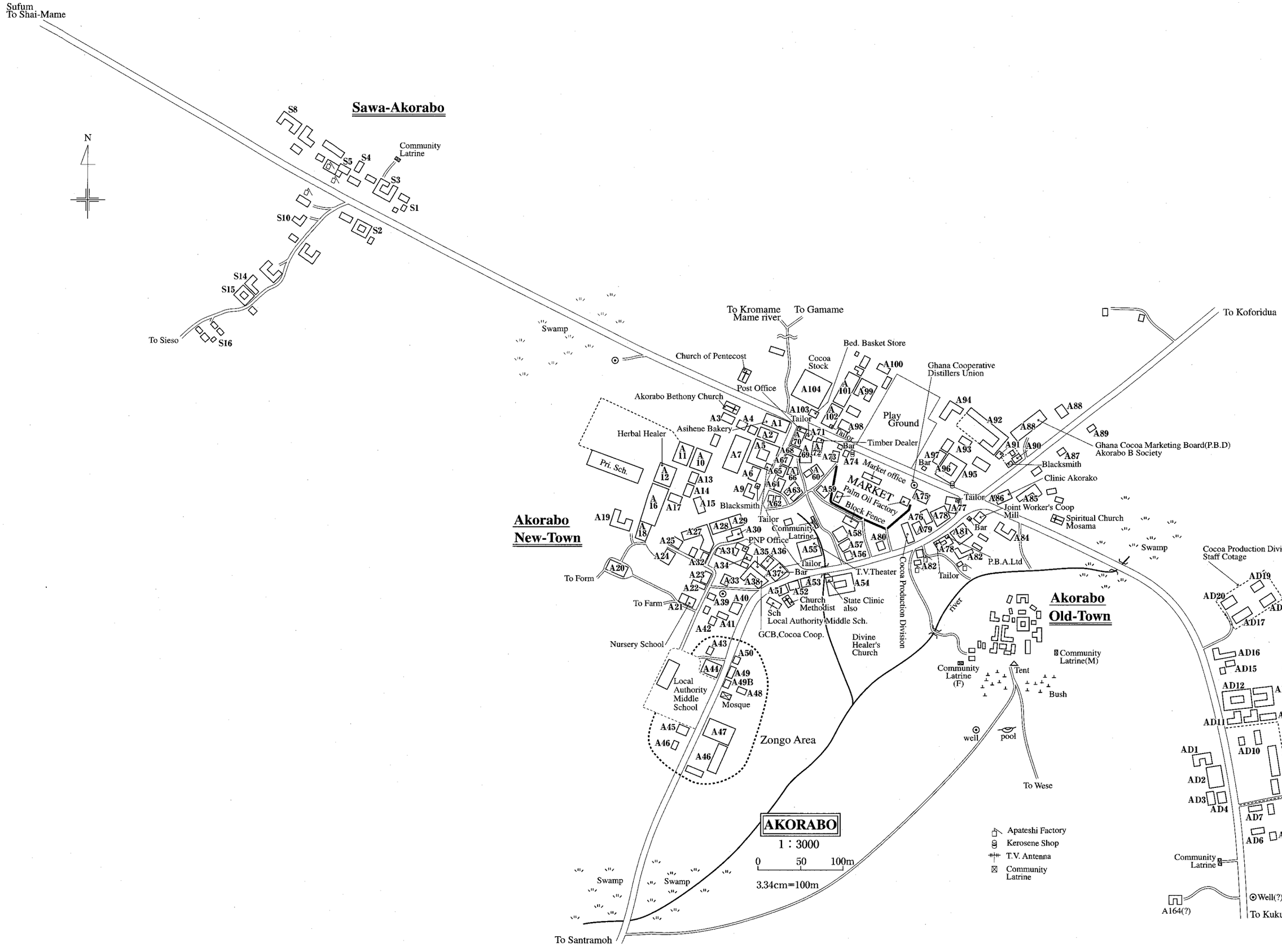
500 – 1,000

BELOW 500

villages

NOTE :

PROJECTED POPULATION FOR THE YEAR2000


Sufum
To Shai-Mame
Sawa-Akorabo
N
S8
S5
S4
Community
Latrine
S3
S1
S10
S2
S14
S15
To Sieso
S16
Swamp
To Kromame
Mame river
To Gamame
To Koforidua
Church of Pentecost
Post Office
Akorabo Bethony Church
Cocoa
Stock
Bed. Basket Store
Ghana Cooperative
Distillers Union
Play
Ground
Herbal Healer
Asihene Bakery
Tailor
Timber Dealer
Bar
Ghana Cocoa Marketing Board(P.B.D)
Akorabo B Society
Blacksmith
Clinic Akorako
Pri. Sch.
Market office
MARKET
Palm Oil Factory
Block Fence
Joint Worker's Coop
Mill
Spiritual Church
Mosama
Swamp
Akorabo
New-Town
Blacksmith
Tailor
Community
Latrine
PNP Office
Tailor
Bar
T.V.Theater
P.B.A.Ltd
Cocoa Production Division
Cocoa Production Division
Staff Cotage
To Form
To Farm
Nursery School
Church
Methodist
State Clinic
also
Sch
Local Authority Middle Sch.
GCB,Cocoa Coop.
Divine
Healer's
Church
river
Akorabo
Old-Town
Community
Latrine(M)
Community
Latrine
(F)
Tent
Bush
well
pool
To Wese
Amedi
Local
Authority
Middle
School
Mosque
Zongo Area
AKORABO
1 : 3000
0 50 100m
3.34cm=100m
Apateshi Factory
Kerosene Shop
T.V. Antenna
Community
Latrine
Amedi
Presbiterian
Primary
Middle
School
also
Church
To
Tokunya
Community
Latrine
Well(?)
A164(?)
To Kukua
Swamp
Swamp
To Santramoh

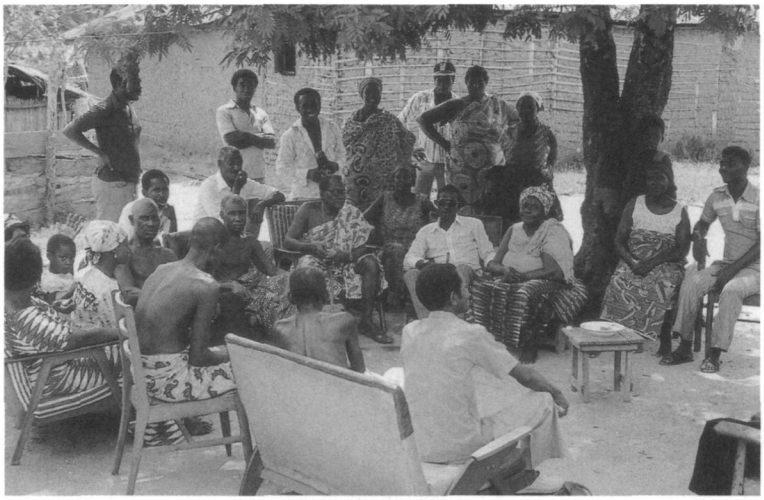


写真2　村の集会，世帯主が集って村の祭事等を協議する。

4）クロマメ地区（Kromame），地区長はオディクロ（Odikuro）

5）サワ地区（Sawa），地区長はこの地区の首長格の農家。

アコラボ郡以外の地区としてはサントラムボ（Santrambo），ゾル（Zorh），フセ（Huse），クワゥ・ナルタイ（Kwaw Nartay），アマデ（Amade），オワワセ（Owawase），ガマメ（Gmame），ワクパティ（Wakpati）がある。

4　教育と教会

1916年キリスト教メソジスト派のジェイムズ牧師（James）の指導の下に，小学校が開設された。しかし，1919年にハイドレ牧師（Hydle）によって，メソジスト教会が建設されると，学校は3クラスに増設された。ついで，長老会派が小学校を建設し，小学校教育の間口は広がったが，資金面の事情により，学校を閉鎖，アコラボから出てアメデ（Amede）に移転した。

1953年にはカトリック・ミッションが小学校を開設した。この場合も，資金が継続されず，閉校に追い込まれた。現在，アコラボのミッション・スクールはメソジスト派の学校教育だけが存続している。政府は公教育としてアコラボに2つの中学校（Middle School）を建設した。以上，初期の教育の普及がミッションを通しておこなわれたため，宗教としてはキリスト教徒が多い。教会としてはメソジスト，長老会派，カソリック，精霊会派があり，イスラム教徒も少数存在する。

5　ココア生産

入植後，ココア農家のファームが開設され，苗木の植え付けがおこなわれた。苗木が実り，順調にココア豆の収穫が軌道にのり，市場を通して輸出されていった。当時，ココアはデンス川まで頭上運搬され，波止場から船でマンゴアセまで送られた。ところが，1936年，東部州にカカオの樹の芽の若芽が膨れる「枝腫病」[2]（swollen shoot disease）が発生，カカオ樹は枯死し，カカオ栽培農家は大きな被害を受けた。1940年代後半，被害は東部州全域におよび，政府は「枝腫病」にかかったココア樹を焼却処分するように指導した。その結果，アコラボの商業活動は衰退し，農家も商人も商業センターのスフムに移住した。ココアの主産地は東部州から西に移っていき，アシャンティ州が最大のココア生産地になった。東部州におけるココア農園は米作地に変更され，この地域のココアの収量はガーナ全体の約20%に減少した。

1947年，ココア・マーケティング・ボード（Cocoa Marketing Board）が設立，この国のココアはすべてC・M・Bを通して買付，輸出がおこなわれることになった。第二次大戦後，世界のココア価格が急激に上昇すると，1951年までに，西アフリカにココア栽培ブームが起こり，世界のココアの60%以上が西アフリカで生産されるようになり，そのうち，ガーナが35%を占めるにいたった。また，1951年には政府が総合開発計画を策定し，C・M・Bの収益をこれに投入した。その結果，生産者の利益取得分が少なくなり，不満を持ったココア栽培農家の中にはココア豆を隣国のコートジボアールやトーゴへ密輸出するものが出てきたという。さらに，1950年代後半，ココア豆の価格が下落，その影響がココア栽培農家を直撃し，ガーナ経済は悪化の一途をたどった。

注

1) ココア（カカオ，アオギリ科 *Theobroma cacao*）の原産地は中米で，18世紀末までスペイン人が独占的に本国に輸入していたが，オランダがベネズエラのキュラソー島へ植民すると，スペイン独占体制は崩れ，ココアの新しい栽培地を求める動きが活発になり，フィリピンやインド，セイロンにもカカオ樹が移植された。アフリカには17世紀すでにスペイン人がカメルーンの沖合いに浮かぶフェルナンド・ポーにカカオを持ち込み，これが，ココアがアフリカに導入されたはじまりといわれているが，本格的な栽培はオランダ人がサン・トメ島とプリンシペ島にカカオを導入し，ポルトガル人がココア農園を開設したことからカカオの島として有名になり，20世紀初頭までは両島がアフリカ最大のココア生産地になった。その後，フェルナンド・ポーからココアの苗木がガーナに移植され，栽培地がひろがっていったのである。とりわけ，ガーナ（当時は黄金海岸）で栽培が盛んになり，ボルタ湖に近い東部州からココアファームが開設されていった。1891年，ガーナからはじめてココアが輸出され，ココアの主産地としての地位を確保した（ベイカー・G著「植物と文明」，加藤由基雄，八杉佳穂著「チョコレートの博物誌」）。

2) この病気はウィルスによって葉に斑点が生じ，落葉する。果実の収量が減少して，やがて，樹自体が枯死する。このウィルスはコナカイガラムシによってカカオの樹に運ばれる。

6 世帯と家族

アコラボの基礎的な社会単位は「ウォフ」(Woku) という世帯である。これは，その夫婦とその子供たちを基礎としているが，それに加えて血縁関係にある親族を含んでいることもある。その場合の親族とは未婚の姉妹あるいは既婚の姉妹であり，ほかに夫の年下の兄弟とその妻たちを含む世帯を構成することもある。つまり，扶養家族が世帯に入り込む場合もある。ただし，結婚した男は自分の家を持ち，その屋内に妻の部屋を作るのが原則である。農家では男（夫）が農地を管理し，生産に責任を持つ。女（妻）は家事を分担する。用水と燃料（主に薪）の確保，炊事，洗濯，育児が主要な仕事となっている。

ところで，こうした世帯内に問題が起こったとき，世帯よりも大きな親族集団の当主が解決にあたる。出自の継承および財産の相続は基本的に父系制である。世帯主が死亡した場合，その兄弟が年齢の序列に従って遺産を相続する。その次はその最年長の息子（長男）が相続者になる。同様に，世帯主が女性の場合はその姉妹が相続し，その後，最年長の娘（長女）が相続にあたる。

7 結婚と出生

7.1 贈り物

女性は思春期の諸儀礼をへて結婚する。結婚の成立には双方の婚姻規制の範囲外であることが確認されなくてはならない。通常結婚は次のような儀礼過程が必要である。

贈り物1：シンオムダ (Sinwomda)

男性が相手方の父母の前で自己紹介するためにオランダ製のジン，シュナップス (Schnapps) を用意しなければならない。

贈り物2：アグボシマダ (Agbosiimada)

次に花嫁の親族の前で自己紹介するためにさらにもう1本シュナップスを用意しなければならない。通常，そのシュナップスは「ノッキング・ドリンク」(Knocking Drink) と呼ばれ，承諾のために相手の心をノックする意味である。

贈り物3：ンガムダ (Ngammda)

花嫁の家族と親族一同に挨拶するためにシュナップスをもう1本用意する。

贈り物4：ヨヘダハム (Yohedahamm)

婚姻儀礼の最終段階として2本のシュナップスと1.4ポンドの金（かね）が儀礼の皿の上

に置かれる。ただし，この儀礼は近代化とともに取り入れられたものと推定される。1.4ポンドの金の代わりに2本のシュナップスと40,000セディを用意してもよい。

その後，花婿はングバニェゲシムフォム（Ngbanyesimfom）として知られる200セディの金を花嫁の母に贈るように求められる。父にもまたンガチェシムフォム（Ngatsesimfom）として知られる200セディが贈られる。これをバドウォンガム（Badwongam）という。少女は1個の鉄製トランクと板金と金の指輪を含む4枚の臘纈染めのプリント地を手にして結婚生活に入る。

7.2 人的配置

婚礼にあたって花嫁は付き添い役に導かれ義理の父の隣に座席が与えられる。贈り物の酒とお金の贈答が正しくおこなわれたかどうか両親（通常は父親）によって確認される。もしその儀礼手続きに問題がなければ，花嫁は祝い酒と盆にのせた金を受け取り，両親のところへ持参する。その後，付き添い役の女性は花婿の父から20セディが与えられる。

7.3 命名式（Otsieyemi）

子供が出生した七日目の早朝に命名式がおこなわれる。儀礼は次のような手順で進行される。

① 清浄儀礼

裸にした子供を両腕に抱えて貯水した雨水を頭からかける。この行為を二度繰り返したあと，子供を布で包んで家の中に戻す。

② 出生祝いの食料

母親と子供の出生祝いの食料としてキャッサバとプランティン・バナナが頭上運搬される。

③ 祝い酒

祖先への献酒（ライベーション）に用いる地酒のジン（アパティッシュ）が贈られる。

④ 祝儀

子供の命名に必要な腕輪と現金（Alele）120セディが用意される。加えて母親と子供の生活必需品を購入する費用として720セディが贈られる。

⑤ その他の贈与品

1) 子供のベットに用いる中古の布地3枚。

2) 小さなタオル6枚。（おむつとおしめ用）

3) 布地6枚

4) 母親のための蠟纈染め1枚。
5) 石鹸6個。
6) 母親へ鶏2羽。

以上のほかに子供への贈り物として銀製品，現金，その他適当な現品が手渡される。その後，母子を祝福する「女たちのダンス」がおこなわれて，儀礼は終了する。また，1年から3年後までの間に母親は十分な酒と飲み物などのご馳走を用意して関係者を招き，子供の成長を祝わなくてはならない。

8 村祭り

アコラボ村独自の村祭りはない。村を構成しているのは移住民なので，村の行事は母村に戻っておこなう。この村で唯一重要な行事はクリスマスである。すなわち，24日のクリスマスイブは特別な食べ物と飲み物を囲んで夜を過ごすのが一般的である。24日にご馳走を食べた後，幾人かは酒を飲み続ける。

具体的なご馳走のメニューの例をあげると，朝はコンビーフのシチューと茹でたヤム芋（Ampesi）が用意される。昼はシチューと一緒にヤム芋か米飯である。夕方は鶏あるいは羊の肉と「フゥフゥ」が多い。26日は村のダンスが終わった後，クリスマス行事として村を巡回して教会へ行く。

9 水の霊

1) クワ・アベナ（Kuwa Abena）：村人総出で祀る神は存在しないが，川には水の霊が存在し，クワ・アベナという。その水の霊を祀る聖なる川の日が決まっていて木曜日が当てられている。祀りの当日，川の近くの畑では仕事をしてはいけない。その水の霊の祭事の司祭者をオボソンフォ・クァク・アバビオ（Obosomfo Kwaku Ababio）という。
2) マミン（Mamin）
また村には金曜日を聖なる日とする川がある。その日は耕作してはならない。この祭事の執行者は現在は首長テイティ（Teitey）が当たっている。
3) サントラモ（Santramo）
やはり，霊の存在により畏敬されている川である。聖なる日は月曜日である。この川の流れにより豊かになった土地や畑には手を加えてはいけない。この川の祭司は現在オボソムフォ・アダエ（Obosomto Addae）である。

村の年中行事は基本的にはこれらの「川の霊」を祀る祭事から構成されている。霊を

祀る儀礼として次のことが重要である。

①献酒：祈りとともに川の霊に献酒をおこなう。

②供犠：白い鶏と羊が屠られ，血が祭壇に注がれる。

③禁忌：すでに述べた聖なる日に耕作しないとともに，これらの川の霊を畏敬し，アコラボ村では夜「フゥフゥ」をついてはいけない。

もし，こうした禁忌を犯すと，旱魃を招くと言われ，誤って禁忌に触れる行為をおこなったものはシュナップス1本を捧げ，白い鶏と羊を供犠して川の霊の怒りを鎮めなければならないという。

10　家の霊

ゴミンゴ（Gomingo）

これは「家の霊」である。ゴミンゴは人間の姿をしているというが，その起源については知られていない。アコラボのチーフの家の入り口に存在するという。その前で鶏を供犠して祈りがおこなわれる。

11.　葬礼

死者が発生すると，1日間，通夜のため遺体が家の中に安置される。埋葬は故郷のドドアの方に顔を向け，土葬される。

以上，アコラボ村の歴史と民俗に関する記述は，基本的には本調査に参加したガーナ大学，レゴン校，社会学科院生 Joseph E.K.Kumah の調査報告（1981年6月12日）をもとに和田が整理，総括したものである。

12　情報提供者

Nana Nargeh Korabo Ⅱ ,Odikuro

Nokotoma Joe Korabo,Wekunotoma

Nokotoma Teite Korabo

Okyeama-manthe Adjatey Kwabena

Mr.J.J.Tei-Meusah

Mr.Norh Teite